

第1回 愛西市緑の基本計画策定委員会議事録（概要）

【日時】平成21年10月28日（水）午後2時00分から

【場所】愛西市役所立田庁舎 第1会議室

【出席者】市民5名、委員12名、事務局3名、関係者（コンサルタント）4名

1. はじめに

（1）開会のあいさつ

都市計画課長より開会のあいさつ

（2）委員長あいさつ

副市長よりあいさつ

（3）委員の自己紹介

2. 議題

（1）愛西市緑の基本計画報告書の確認

①事務局より市民代表会議の概要説明

②事務局より愛西市緑の基本計画報告書の概要説明

緑の基本計画報告書に対する意見・質疑応答は以下の通りである。

委・親水公園の桜は桜並木に該当しないのか。

事・親水公園については、公園の敷地内なので、桜並木とは別の扱いとしている。

委・都市公園整備面積の目標値について、総合計画とは整合をとっているのか。

事・本市の都市公園の未整備部分、国営木曽三川公園の整備の見通し、将来都市公園としての位置付けが見込まれる公園について、予定整備面積を積算した数値となっているため、目標数値としては適切かと思う。

委・特産農産物を発信する拠点づくりについて、「道楽の郷」は該当しないのか。

事・道楽の郷は、地域の特産品というよりは他地域から仕入れているものも多くあるということで、ここでは入れていない。

委・雨水の貯留施設について、下水道完備によって浄化槽が不要になった際に、浄化槽を洗浄すれば、雨水を一時的にためて洗車や水やりに活用できる。個人の浄化槽活用を促す取組みを強化してほしい。

事・本市では、浄化槽を雨水貯留施設に転用する場合の補助金制度を考えているところ

である。来年あたりから、下水道の供用開始に合わせて補助金の方も開始する予定である。

委・国営木曽三川公園の（仮称）鵜戸川はどのようなとらえ方なのか。

事・国が出している国営公園の整備プログラムの表現に合わせており、場所で言うと排水機周辺の鵜戸川下流エリアを指している。

委・「ビオトープの形成」とは、現状の自然の中で保全していくという理解をしているが、報告書の中には「ビオトープの整備」という表現も出てくる。これは、具体的に計画があって、ビオトープをつくっていくというとらえ方になってしまう。

事・今あるものを残すという意味で、「整備」を「機能強化」などに統一する。

委・総合評価の中で善太のマツが入っていないが、公共のものか個人のもので振り分けているのか。東保八幡社のクロマツより善太のマツの方が地域では有名だが。

事・公共・個人というふりわけも一つの理由であるが、文化財としての指定という視点も含んで、東保のクロマツを記載している。

委・計画のスローガンの「みどり」がひらがなとなっているが、意味があるのか。

事・市民のみなさんとこの表現に決めた。

委・水辺のネットワークについて、日光川は2級河川であるので、「小河川」という表現は適切ではないのでは。「中小河川」の方がよい。

事・そのように修正する。

委・後ほど緑地率について話が出てくるので、緑の現況でも緑地率を記載した方がわかりやすい。その際に市街化区域と市街化調整区域に分けるとなおよい。

- ・目標値は、緑地率についてはこれでいいが、都市公園整備面積については、1人当たりの公園面積も併せて記載してほしい。本市は国営木曽三川公園が多くを占めているので、国営公園と身近な公園を区分して整理した方がよい。
- ・先ほど挙げられた「みどり」の表現についてだが、緑の多様性を広く示すために、最近では国もひらがなの「みどり」を使うことが多くなった。

委・垂直のコンクリート護岸を緩傾斜の多自然型の護岸に改良できるのか。

事・コンクリート張りの護岸を木材で土留めをして植物が生育できるようにするなど、すでにやっている箇所もある。

委・日光川については、多自然型の護岸にすることを施策として検討を進めている。また、領内川の方でも検討中である。

事・本文中では、そのような表現を行うこととする。

委・社寺林について、樹種やバランスを考慮した植樹とはどういうことか。

・利用されていない公園が多いという意見について、本市は都市公園が少ないにも関わらず、利用されていないのか。

事・1種類の植物だけを植えても多様な生物は集まってこないため、様々な樹木を植栽することが重要だという意見であった。

・都市公園以外の、小規模なちびっこ広場に対しての意見としてとらえていただければと思う。

委・現在の表現だと都市公園についての意見としてとらえられてしまうので、どの公園についての意見かがわかるようにした方がよい。

事・除草剤についての意見がいくつか見られるが、県の方からそのような指導はあるのか。

委・国から、公園などへの予防的な過剰使用はやめてほしいと言われている。

凡例 事：事務局

委：委員

（２）その他

①次回の策定委員会の内容及び開催時期について

・今後のスケジュールの流れは以下の通りである。

○11月中旬～下旬：第２回策定委員会

○12月～1月：パブリックコメントの実施

○2～3月：第３回策定委員会（最終決定）

②閉会のあいさつ